

ことばって

おもしろい

郡山市箱崎陽菜さん
郡山市箱崎陽菜さん

最近、私と私の母は「ことばっておもしろい」という新聞の中のコラムにハマっている。はじまりは、母が「ごおもしろい」と、私に見せてきたことだった。

そのコラムは、解説が分かりやすく、いっしょについているマンガもとてもおもしろい。私と母は、そのコラムのおもしろさにどっぷりつかってしまった。毎週日曜日にそのコラムを確認している。また、そのコラムを見ているうちに、ほかの記事も見ようになつた。私が新聞を手取るようになったのは、この

コラムの存在があったからだ。

秋に、校内新聞コンクールがあった。私は新聞の原稿を作ることになった。想像以上にバタバタとしていて、とても忙しくなった。また、いっしょに新聞作りをするはずの子は、大会などが重なった。そのため、ほとんどの仕事を私がやることになった。しばらくの間多忙な日々が続いた。完結すると、ふっと脱力。こんな仕事を、新聞社では毎日のように行っている。まさに神ワザだ。表現も工夫しているから、本物の新聞はおもしろ

い。言葉の力は絶大だ。い。「ことばっておもしろい。だから、言葉って興味深そう」

新聞がつなぐ

家族の会話

母 箱崎 智子さん

私はテレビやインターネットからよりも、新聞から情報を得るほうが多い。購読している地元の新報は福島の記事が多く掲載されており、毎日何かしらの発見がある。郡山三中生の名前や、小学校の記事があると「すごいね賞取っているよ」「今度大会があるみたいだよ」と会話が弾む。

今日も新聞を読んでみると中学生作家の記事が目にとまった。思わず娘に「すごいよ、中学生の作家だって」と記事を渡す。娘も「本当だ、この本

見たことあるんだけど中学生が書いていたんだ」と驚いていた。自分と年がかわらない子が立派な小説を書いている記事の内容を読み、娘の心に響いたのは間違いない。

新聞はテレビ等の一方的な情報とは違い、自分で読むことで自分なりの解釈を持つ。そこから学ぶこと、感じることは多く、家族間の会話も豊かになっていく。新聞は私たち家族にとってかけがえのないコミュニケーションのツールとなっている。

第9回「私と新聞」親子作文コンクール
入賞作品紹介 20・完